

デジタルインボイス推進協議会 普及促進部会 活動報告

2026年7月1日(水)
弥生株式会社

本日の報告事項

- 1 普及促進部会とデジタルシームレス検討会について
- 2 国際カンファレンスへの派遣について

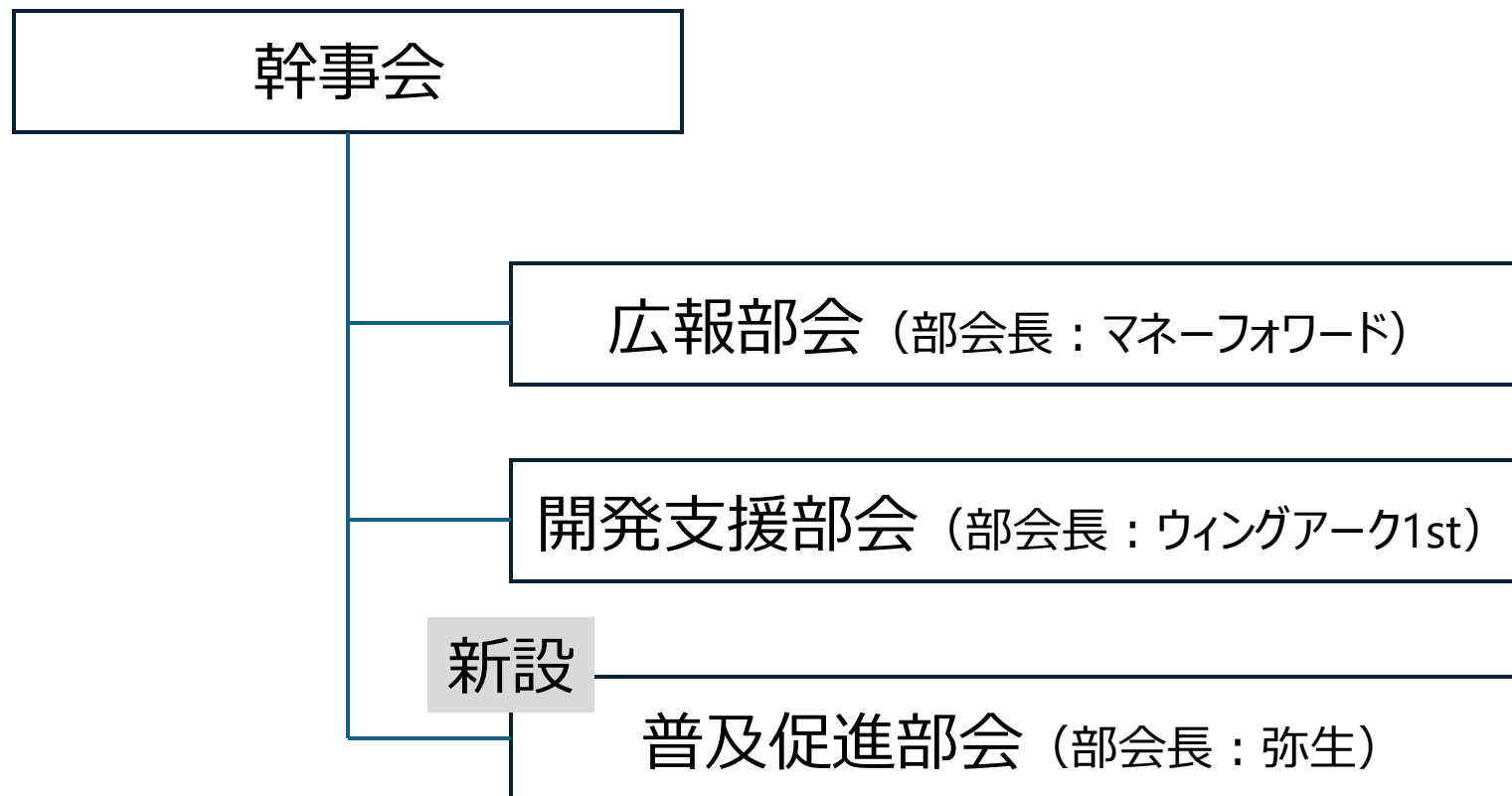
本日の報告事項

- 1 普及促進部会とデジタルシームレス官民検討会について
- 2 国際カンファレンスへの派遣について

普及促進部会とは

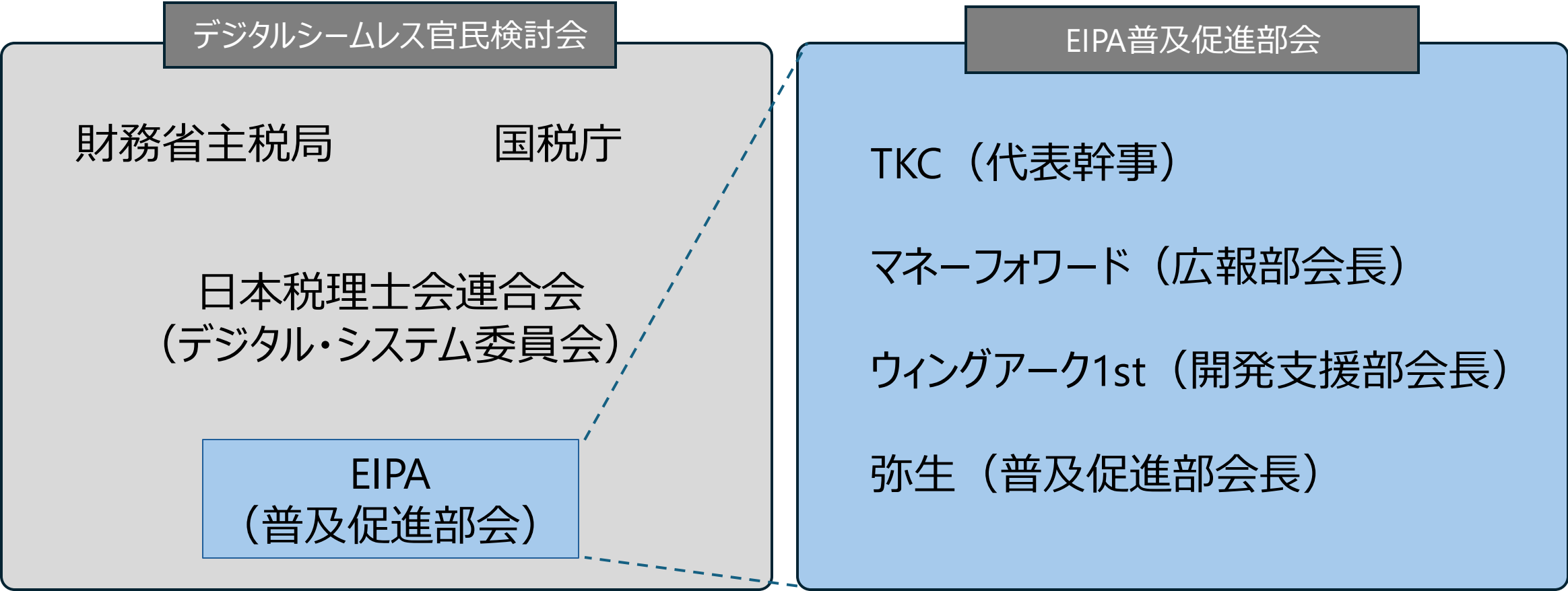
「デジタルシームレス官民検討会」において、財務省、国税庁、日税連と連携してPeppolの普及促進に関して検討するためのEIPA側の議論の受け皿として昨年新設

【EIPA組織構成】



普及促進部会とデジタルシームレス官民検討会の関係性

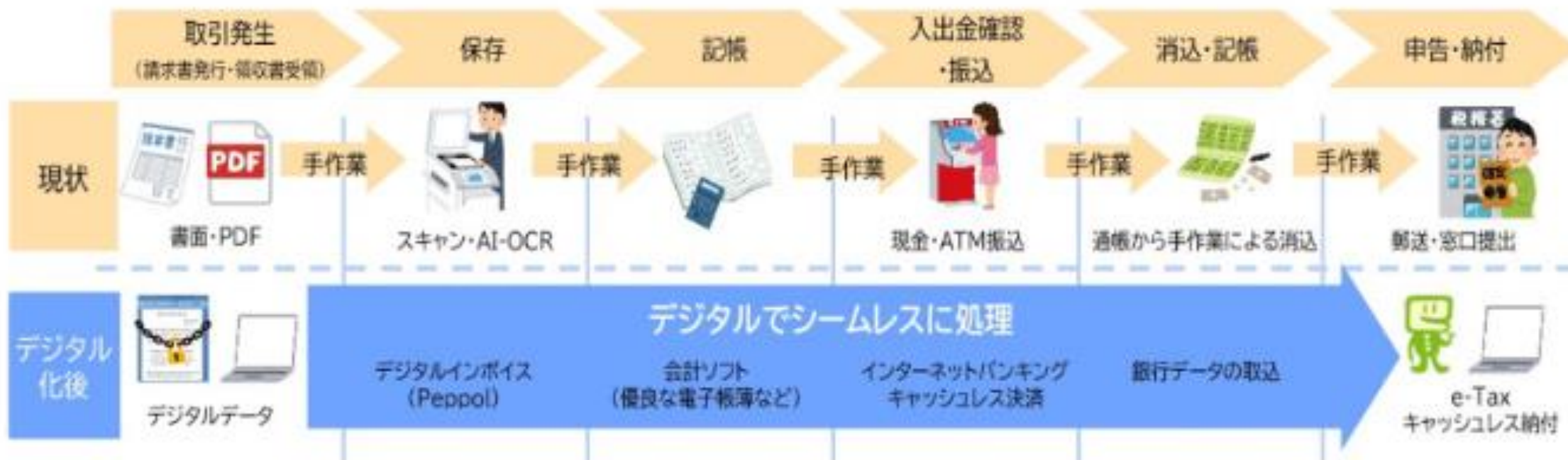
機動的かつ網羅的な検討対応を行うため、代表幹事及び各部会長の4者で構成



参考：デジタルシームレスとは

請求→記帳→決済→申告・納付までがデジタルでシームレスに処理されることによって、事務負担の軽減やTax complianceの確保が期待されている

■ デジタルシームレスの効果



(出典：令和6年11月13日 第1回経済社会のデジタル化への対応と納税環境整備に関する専門家会合 財務省提出資料抜粋・一部加工)

デジタルシームレス官民検討会における主な検討事項

・請求（Peppol）の部分にフォーカスし、「まずPeppolを使い始めてもらおう」というコンセプトで、導入にあたっての課題や対応策について検討を開始している

【議論している課題及び対応策の例】

・事業者デジタルインボイスが認知されていない

→ 国税庁・日税連・EIPAで連携した広報の検討（広報部会）

・デジタルインボイスを認知していても導入するインセンティブがない

→ モデルケースとなる事例の創出・広報、税制上のさらなる優遇措置の検討、法人向けのインセンティブの検討 等（広報部会/普及促進部会）

・事業者が導入しようと思っても導入手順が分からない

→ 導入手順等について各ベンダーの情報を集約しEIPAで公表（広報部会）

・自社で導入したとしても、取引先がPeppolを使っているかどうか分からない

→ 何らかの方法によるPeppol Ready企業の見える化について検討（広報部会）

今後の活動について

- ・普及促進部会としては、税務当局や税理士会の皆様と連携しつつ、Peppolの普及に向けた取り組みを進めてまいります

- ・具体的な検討や活動については各部会で会員の皆様のご協力を得ながら進めていくことが必要不可欠ですので、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします

本日の報告事項

- 1 普及促進部会とデジタルシームレス検討会について
- 2 国際カンファレンスへの派遣について

国際カンファレンスへのEIPAメンバー派遣

普及が先行する海外の最新動向を把握するため、OpenPeppolが主催する国際的なカンファレンスに、EIPAの各部会で選定されたメンバーを派遣

- ・APAC Peppol Day (2025/11/27) 於：シンガポール
- ・Peppol Conference Europe 2026 (2026/6/14-15) 於：ブラッセル（ベルギー）



得られた示唆について

各セッションや参加国との対話を通じて、主に以下の示唆が得られた

【主な示唆】

- ・ヨーロッパを中心にグローバルでは急速に普及が進んでいる。このままでは日本は取り残される懸念
- ・民間企業や団体の取組だけでPeppolが広く普及した国は見当たらない。逆に、義務化など政府の強力なコミットがあるところでは普及が進んでいる
- ・5 Cモデルやe-Reportingなど、請求レイヤーだけではなく税務申告レイヤーとの組み合わせが主流
- ・Tax Complianceだけでなく、納税事務負担の軽減、デジタル単一市場の実現など、利用者側のメリットも意識的に強調されるようになってきている

今後の派遣について

- 今後も、年 2 回程度の頻度でOpen Peppolのカンファレンスに参加する方向で検討
- 各部会で参加者を募集することになると思われるため、その際は是非参加をご検討ください